

I. 本邦道路隧道に關する規格

我國に於ける道路隧道の構造に關しては特別の規定は設けられて居ないが、道路構造令並同細則改正案により、道路の建築限界其他が定められて居るから之に準據しなければならぬ。同案中隧道の構造と關聯ある幅員と建築限界に就ては次の如く規定されて居る。

道路構造令並同細則改正案

第四、道路の有効幅員は次に掲ぐる甲の規格を下ることを得ず、但し山地其他特殊の箇所に限り、乙の規格に依ることを得。

道路の種類	甲	乙
國道	7.5m	6.0m
指定府縣道	6.0m	5.5m
其の他の府縣道	5.5m	4.5m

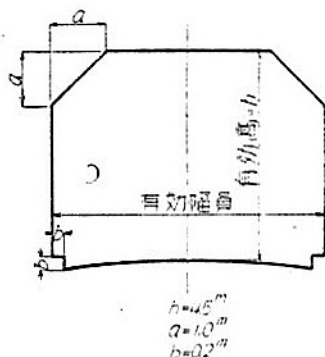
前項の有効幅員より大なる有効幅員を必要とする場合に於て 11 m 迄は次に掲ぐる規格によるべし。

11.0m	9.0m	7.5m	6.0m
-------	------	------	------

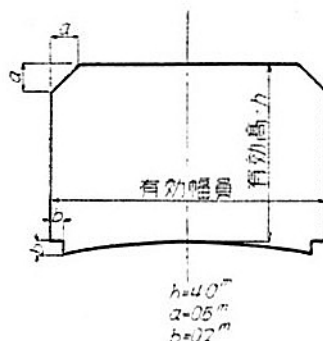
第五、橋梁及隧道の有効幅員は第四の規格による接續道路の有効幅員と同一となすべし。但し橋梁に在りては其の延長 15m 以上、隧道に在りては特殊の場合に限り接續道路の有効幅員の次位の有効幅員と爲すことを得。

第六、路面上の建築限界は次に掲ぐる甲の規格によるべし。但し特殊の箇所に限り乙の規格迄縮小することを得。

(甲)



(乙)

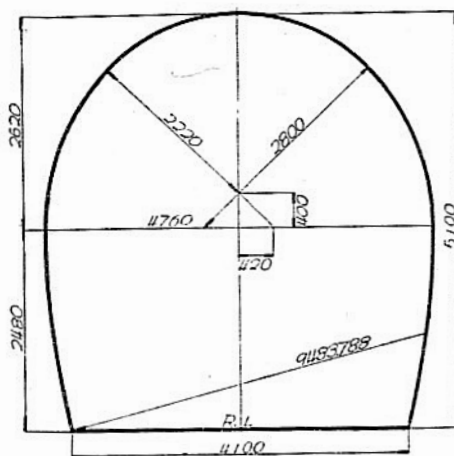


II. 道路隧道の斷面形

隧道の斷面形は交通車輛の大きさとそれに對する餘裕とを見込んで定められた建築限界を包含し、地山の壓力に堪へ得る形狀を有し、施工方法に適した内空斷面を必要とする。其他換氣を要する時は自らその斷面形も變るが、一般に普通の地質の箇所に於て最も經濟的な内空斷面形が決定され得るものと考へられる。鐵道に於ては夙に隧道の標準斷面形を定めて居るが、道路隧道に於て未だその制定を見ないのは、事情がやゝ複雑な爲と考へられるけれども、近き將來に於てその氣運に向ふものと信ぜられる。こゝではこの問題に觸れず、次に本邦鐵道隧道の標準斷面形及び外國道路隧道の斷面形數例を掲げて參考に供する。

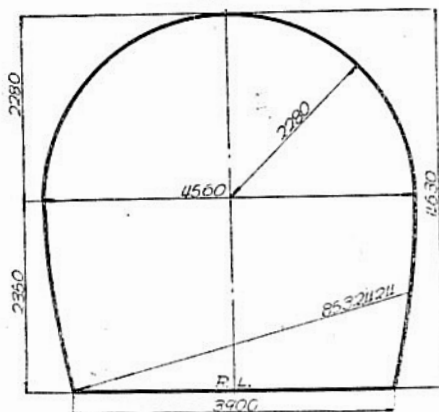
a. 本邦鐵道隧道の標準斷面形

第一號型

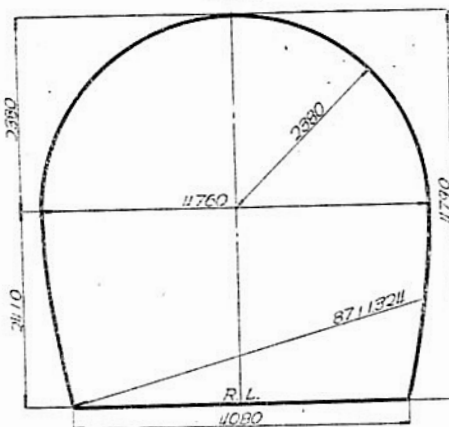


第二號型

直線用

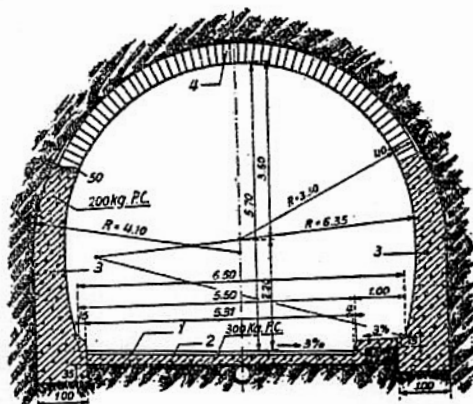


曲線用

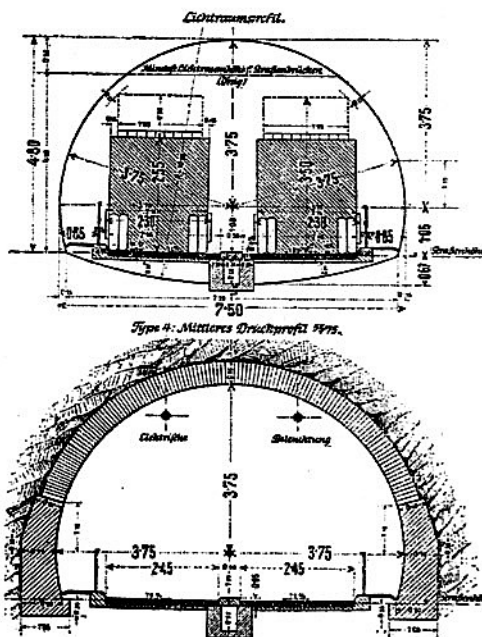


b. 外國道路隧道の斷面形實例

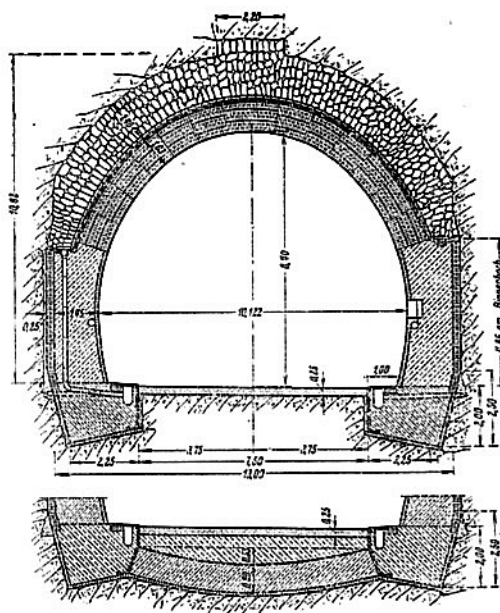
- i) スイスの例 (Asph. u. Teer Strassenbautechnik, 1935. s. 589より)



ii) ドイツの例 (Die Strasse, 1935. s. 379 より)



自動車国道の隧道 (Engerberg-Tunnel) (Die Strasse, 1938. s. 307 より)



iii) 米國西部の例 (Public Roads, 1938. p. 126~127より)

